

■美術部 【令和元年度 部員数 : 1年5人、2年6人、3年2人】

『令和元年度 湯沢雄勝地区高校美術展』が行われました！



『令和元年度 湯沢雄勝地区高校美術展』が2月11日（火・祝）～2月17日（月）まで湯沢市役所・1階市民ロビーで行われました。

本校生徒の出品作品は以下の通りです。



特賞

『 印〜あかし〜 』

1年 佐藤美桜

踊った後の自分の足を描きました。バレエは舞台上に立っている間はきらびやかで美しいですが、そこで輝くために裏では地道な努力が必要です。踊った後は皮がはがれるし爪も割れてしまいます。それでも美しさを求めて踊り続ける踊り子の情熱ときらびやかな世界の裏を描きました。

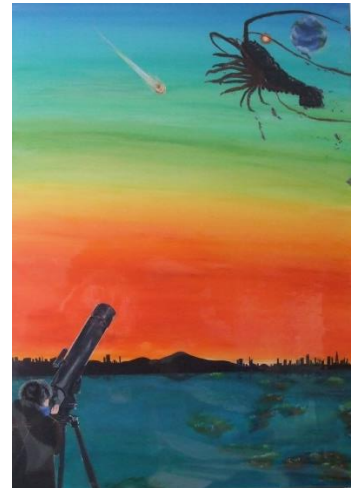


奨励賞

『 朝焼け 』

2年 鈴木佳歩

寝起きの沈んだ空気が朝焼けの光によって払拭されてゆくような朝の雰囲気を描きました。部屋に入り込んだ光を表現するのが難しく、暗い色に、明るい色を何度も薄く塗りました。



奨励賞

『 旅行 』

1年 平柳美陽

少年が家族旅行をした先で恋をしたという絵です。おせち料理に使われる縁起の良いエビ、のような何か、望遠鏡の向く先に飛んでいったのには優しさがあります。恋は障害がつきものというのは、宇宙共通の事実です。



戦慄

2年 佐々木一葉

獣の吠える瞬間の表情も描きました。鼻の上付近の一点に集まったしわや強い目力を協調させることで、絵からはりつめた雰囲気を感じてもらえるよう全体を寒色、暗色を使い表現しました。また、目の色に黄色を使うことで危険さを表現しました。



心の中

2年 宮原理名

電車の中=心の中というふうを描きました。暗い電車の中や、外の水中で不安や悲しみなどを表現しました。また、窓の外をあまりはっきりと描かず、手前をはっきりとさせることによって心の中と外との違いを描き、奥行きを出せるようにしました。



光に向かって

2年 藤本爽花

夜の暗い空から明るい黄色やオレンジが光を放っている、無効の側に何かいい事がある。これから頑張ろうと思われてくれるような朝焼けをかきたくてこの絵を描きました。実際の空にあるような色になるよう塗り重ねました。拙い絵ですがぜひ見てください。



軌跡

2年 佐々木理央

今まで積み重ねてきたものが花ひらいたということを描きたかったため、このテーマにしました。私のターニングポイントとなった秋田県高校総合美術展に出品した絵を際立たせるように描きました。



純真

2年 小松楓

ただ真っすぐな眼で全てを見つめる少女にきっと誰もが持っていた純真さを表しました。また、明るい金色の髪で純真さの中にある光にとけてしまいそうな儚さも表現しました。



星の降る夜に

1年 丹尾正梨野

田舎の町で少女が憧れの流星雨に逢う、流星は願いを叶えるといわれているらしいが、少女はそのことも忘れ、ただただこの二度とないかもしれない景色を見ていた。



夢

1年 佐藤駿

まぶたの裏に映る景色を表現しました。「入眠時心像」と呼ばれている目を閉じた時に見える像で夢を表し、夢は普段は目で見れない太陽を表しました。ここでの太陽は今の自分にとって目がくらむほどの強い光を放つ理想として描いており、現実では直視できないほど輝く太陽（理想）を夢ならばはっきりと視えるというコンセプトで描きました。



SKY

1年 リー小姫

授業の合間に、窓から眺める空。帰り道でふと見上げる空。海の向こうに広がる空。真夜中の空。
空は時と場合によって、様々な姿を見せる。生きてきた中で色んな空を見てきたが、一番印象に残っているのは飛行機の窓から見た空だ。空から見る、空。地上から見上げる空とは違うその姿は、何年経っても私の記憶に残っている。